

# うきしま

第86号

令和6年12月20日  
PTA広報部

## 特集

# 文化祭

令和六年十一月八日(金)、浮島分校体育館にて文化祭が開催されました。

舞台発表の部では、

一年「チャレンジムービー」

二年「マジックショー」

三年「キノピオを救え」

四年「浮島分校クイズ王決定戦 DEATH」

右のとおり題名で、各クラスがプロジェクト等を使用して、趣向を凝らした舞台発表を展開していました。

展示の部では、一年生の美術作品、一年生と二年生の国語作品、三年生の書道作品、三年生と四年生の華道作品等にコンピュータ部の有志作品も並びました。

また、恒例となったPTAからのお弁当プレゼントが今年度も実施され、生徒は弁当専門店のメニューから希望する弁当を選んで、

文化祭が始まる前に、お好みのお弁当で腹ごしらえをして文化祭に取り組みました。

## 第一学年

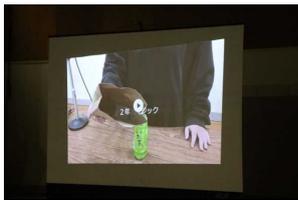


一年生は、いくつかのグループに分かれ、それぞれが頑張った挑戦を動画で発表しました。

## 第二学年



二年生は、ステージ上でマジックショーを行いました。ステージ上でのマジックショーは、臨場感がある反面、舞台から遠い観衆には見づらいたという難点があります。その難点を克服するため、スクリーン動画も発表しました。



## 第三学年



三年生は、昨年に引き続き演劇に取り組みました。劇の内容はプレステゲームのような物語で、可愛らしい衣装の俳優がコミカルに演じていました。



第四学年



四年生は、二択クイズ形式でクイズ王決定戦を行いました。第四学年は最も人数の少ない学年ですが、全校生徒を巻き込んだ大変にぎやかな発表となりました。司会者の独特の言い回しも印象的でした。



轍(わだち)  
校長 田中 重春



浮島分校PTA会員の皆様にはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。皆様には、日頃から浮島分校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、この一年は、長く続いたコロナ禍の社会的影響はほぼ感じられなくなりましたが、同時に社会のDX化が一層加速し、コロナ禍以前の形ではない「新しい普通」が当たり前になる一年であったと感じています。また、記録的な酷暑となった夏、そして短い秋を経験し、一気に冬が到来しました。環境面でも大きく変化を感じられる一年になったと感じています。そんな中、二学期もここまで「新しい普通」をベースに教育活動を推進してきました。生徒の皆さん

は日々の授業に加え、両丹定通総体、遠足、文化祭そして総合的な探究の時間などにしっかりと、また楽しんで取り組んでくれたと思います。

両丹定通総体は、昨年度までバドミントン部のみの参加としていたところを、今年度は全員がいずれかの競技にエントリーすることとなりました。全員の力が集結したおかげで、近畿大会に出場を果たしたメンバーを中心にバドミントンで一位から三位までを独占、ソフトバレーボールと卓球で三位となりました。そして、惜しくも敗退したチーム・選手に対しても皆が熱い応援を送り、誰もが頑張れた有意義な一日となりました。

また、中丹文化芸術プロジェクト第38回中丹文化芸術祭短歌・俳句・川柳公募24では、ヤング短歌部門で三年生が特選と入選(一名二作品)、ヤング俳句部門で一年生が入選をしました。そして、四年生は各自の希望進路実現をめざして試験等に挑戦し、頑張りました。

それぞれがそれぞれの形で小さなゴールを積み重ね一步一步前進し、チーム浮島として一体感を示してくれました。そんな姿をとて頼もしく思っています。今後とも各自が自分のペースを大切に

つも学校や社会の要請に応え、社会の一員として成長していつてくれることを願っています。

ところで、生徒の皆さんや会員の皆様はNHKドラマ10「宙わたる教室」を観られたことがあるでしょうか。このドラマは、東京、新宿にある都立高校の定時制が舞台です。そこにはさまざまな事情を抱えた生徒たちが通っていて、理科教師の藤竹先生を顧問として科学部を結成し、学会で発表することを目標に、「火星のクレーター」を再現する実験を始めていく物語です。大阪府の定時制高校の活動から着想を得た、作家 伊与原新氏の同名の小説がドラマ化されました。高校の青春ドラマと言えば全日制高校が舞台になるのが一般的で、夜間定時制高校や通信制高校を舞台にした作品は多くありません。だからこそ、その内容にとっても強く惹かれました。中でも無人火星探査機オポチュニティが残した写真「オポチュニティの轍(わだち)」



（轍…通った車が残した車輪の跡のこと。この写真には火星の荒野にずっと続く二筋の車輪の轍が写っています。）について取り上げた第三話がとても印象に残っています。

オポチュニティは、当初約三ヶ月程度の活動期間が想定されていました。しかし、実際には2004年一月の火星着陸から約十五年の長きにわたって活動を続けました。砂嵐の吹く荒涼とした火星で、たった一台で、太陽光発電のみを頼りに、探査を続けることは無人機であっても想像を絶するものです。その中で撮影された一枚が、自身が進んできた轍を撮影した「オポチュニティの轍」でした。ドラマの中では、起立性調節障害で苦しんでいた一人の女子生徒が、藤竹先生とオポチュニティの轍に出会い、自分の新しい轍を作っていくことを決意します。最後の場面で、先生と一緒に火星を見上げて「あそこに今も壊れたままのオポチュニティがいるんですね。寂しいだろうな。」と語った際に、先生は「火星の荒野に一人ぼっち。オポチュニティの轍を孤独の象徴と捉える人もいるかもしれない。でも僕には、少しでも前に進むうって、懸命に生きた証に思えるんですよ。」と答えます。そして彼女は科学部の挑戦を記録

していくために科学部記録ノートに渡されます。そこで先生は「このノートが科学部の轍になるように。」と伝えます。この時、これまで苦しんできたことを自分の轍として受け入れ、これからいくらでも新たな轍を刻んでいくことができると感じ取ったのだと思います。

考えてみれば、生徒の皆さんだけでなく、我々教職員も、アルバイト先や職場の先輩方も、そして保護者等の皆様も、誰もがオポチュニティと同様にこれまで自分自身の轍を刻んで生きてきました。その轍は誰かと出会って二列四筋の轍となったり、交錯して離れていったりするかもしれません。また、何度も障害を避けて大きく回り道をすることもあるでしょう。それでも刻まれた道筋はその人の大切な経験です。そして、少しでも前に進むうとしなければ、「轍（跡）」は残りません。どんな形であれ、それが進歩の証ですし、新たな轍はこれからいくらでも残していけるのです。

あらためて生徒の皆さんに伝えたいと思います。引き続き、少しずつ構いません、自分のやり方で進んでいってくださることを期待します。今は迷い、悩むことがあっても、日々の小さな前進（小さなゴールのクリア）が、いつの日

か皆さんを最終ゴールとするところへ導いてくれるはずですが、それぞれの轍を残しながら。また新たな年を迎えます。新しい一年が皆さんにとって良い一年になること、新たな歩みの一年になることを願っています。また、浮島分校PTA会員の皆様にとっても良い一年になることを祈念いたしております。そして、お子様たちの前進を引き続き暖かく見守り、サポートしていただきまますようお願いいたします。



## 各学年より

一年担任 有安 志悠

長かった二学期がいよいよ終わりを迎えようとしています。両丹総体や遠足、文化祭など行事が盛りだくさんでしたが大きなトラブルなく乗りきることができました。

さて、一年生の皆さんが入学してから八ヶ月が経ちました。誰一人、とはいきませんでしたが大きく欠けることなく終業式を迎えることができ、担任としてとても嬉しく思います。皆さんの表情も入学したばかりで緊張しながら互いに様子見をしていた一学期に比べて大分柔らかくなったように思います。この調子で三学期も頑張ります。

一方で学校生活に慣れたからなのか、無断欠席や無断早退が目立ちました。昼間はアルバイトに勤しみ夜は学校で授業を受ける、という生活はとて大変です。なので「今日は疲れたから休みたい」「ちょっと早引きて友達とご飯を食べに行きたい」という気持ちは十分理解できます。ただ、欠課がかさむと単位の認定、ひいては進級にも影響が出ます。実際に欠

課回数がかさんで指導を受けた人も出始めました。何のために高校に入学したのか、目的を達成するために何をしなければならぬか、それらを考えながら冬休みを過ごして欲しいと思います。

### 二年担任 河本 壮平

二学期が終わり、皆さんの努力と成長を振り返る時期となりました。この学期も多くの挑戦と成果がありました。

この二学期は、学業だけでなく、学校行事でも多くの成果を上げました。特に、文化祭では皆さんの創造力と努力が光り、素晴らしい発表を見せてくれました。二年生は手品をしましたが、去年とは違い、ステージに立って発表してしまいました。来年度に向けてまた一歩、進歩を遂げたいと思います。また、期末試験に向けての勉強も一生懸命取り組んでいる姿が印象的でした。今学期は授業の出席も順調に続き、真摯に学業に取り組んだと思います。

冬休みは、リフレッシュする良い機会です。家族や友人と楽しい時間を過ごしつつ、次の学期に向けての準備も忘れずに行いましょう。特に、読書や趣味の時間を大切に、自分自身を豊かにする時間を持つてください。次の学期

も一緒に頑張りましょう。

### 三年担任 村上 和也

長い二学期でしたが、意欲的に過ごせました。両丹総体でも複数の競技で入賞するなどの活躍がありました。特に文化祭では昨年に引き続き演劇を披露し、大変好評でした。七人と少人数ですがその分一人二役三役と活躍して頑張りました。充実した学校生活ができたように思います。校外でもアルバイトで活躍していますし、自動車運転免許資格を取得するなど、一人一人の持ち味を生かして頑張っている姿が見受けられました。三学期は短いですが、最終学年の四年生に向けての大切なステップアップポイントでもあると思います。これからも今まで同様いろいろなことにチャレンジしていきます。

### 四年担任 温井 正人

二学期が始まり、あつと言う間に年の瀬を迎えようとしている段階です。二学期は進路を決める学期ですが、六名中一名が専門学校、二名が地元企業の合格を決めています。一名は既にレギュラーで働いていますので、残る二名がまだ健

闘中というところですが。最後の文化祭では皆が協力して生徒徒参加型の「浮島クイズ王決定戦DEATH」を成功させました。司会の村島琉斗君がうまく進行を進め、予想以上に盛り上がり、最後の文化祭を締めくくることができました。あと数ヶ月ですが、進路を全員が決め、残る学校行事に積極的に参加し、卒業して欲しいです。



### 学年部以外の校務分掌より

### 教務部長 青松 載剛

二学期は、生徒たちの成長を多く感じられた一方で、長い期間の中で気持ちが緩む場面も見受けられました。特に後半は、遠足や文化祭といった大きな行事が終わり、緊張感が薄れることで、生活面や学習面で気の緩みが出てしまいう生徒も少なくありませんでした。しかし、それもまた成長過程の一部であり、自分を律する大切さを学ぶ機会になると思います。

二学期は行事がたくさんありましたが、両丹にある定時制通信制の各学校と交流する総合体育大会が印象的でした。どの競技に参加するかは希望制なので、普段の授業とは違い、学年を越えたチームでの参加もあつたり、初めての相手との試合だったりしたので、うまくいくかなという不安もありましたが、どの競技も白熱し、とても愉しく競技ができたと思います。三学期は次の学年に上がる準備期間でもあります。卒業を控えた生徒を送る時期にもなります。卒業に向けて一生の成長と新たな挑戦を見守りたいと思います。

**生徒指導部長 山段 優**

長かった二学期もようやく終わろうとしています。皆さんにとつてどのような二学期でしたか。

さて、二学期は文化祭、遠足等多くの行事がありました。九月は定通総体に初めて全員で出場しました。初めての出場にも関わらず、多くの賞状を持って帰ることができました。十月の遠足では、大阪難波方面にて自由散策を行いました。短い時間の中でしたが、それぞれに充実した時間を過ごすことができました。十一月の文化祭では各学年や教科での発表を行いました。各学年、それぞれ異なる舞台発表に挑戦し、観客を楽しませてくださいました。

様々な行事を通して、新たに交友関係を広げたり、好きや得意を見つれたりすることに繋がっていることを期待します。残すは三学期。周りの人に思いやりを持ち、より充実した学期になるよう期待しています。

**進路指導部長 山本 彰治**

早くも長かった二学期が終わろうとしています。四年生六名にとっては卒業後の進路を決める大切な時期です。すでに正社員として働いている一名を除いては、実質五名が進路を決めなければなりません。一名は進学希望で、専門学校で学びながら資格を取得し、将来は介護の仕事に従事したいという希望を持ち、すでに合格が決まっています。他の四名は就職希望で、学校紹介での就職を目指しました。その内、二名は無事に内定を決めました。二名は就職先が未決定の状況です。まだ少し時間がかかるかもしれませんが、何とか正社員として採用されるように就職指導及び支援をしていきたいと思っています。

今年就職状況は景気も回復し、人手不足と少子化で、半世紀ぶりに高水準となりました。京都府内の高卒求人倍率は五倍近くにあり、就職する高校生は『令和の金の卵』とまで言われ、貴重な存在となりました。ぜひこのチャンスをものにして、自分の希望する職業に就けるよう頑張りましょう。

**保健部長 村上 和也**

新型コロナウイルスも一定の終息の様相を呈していますが、4月から今日までに浮島分校だけでも数人のり患者があり、気を付けなければならぬことに変わりはありません。またインフルエンザも冬季だけでなく流行っており、一年で一番多くの患者を出す時期でもあります。私もそうです。今年秋から冬にかけてせき込む人が多くみられています。何か気管支に悪いものが飛んでいるのかもしれない。何にしろ、免疫力を高めた強い身体を保っていきたいものです。学校の産業医さんからはビタミンを豊富にとることや魚を食べることを勧められました。魚の美味しい日本海に面している舞鶴だからこそ豊富な海洋資源を摂取してこの冬を乗り越えたいものです。

**PTAトピックス**

**【郡部育友会連合会】**

十一月七日(木)、福知山市丹波生活衣館にて京都府立高等学校校定時制郡部育友会連合会(略称「郡育連」)の研修会が開催されました。浮島分校代表として領家さおり様に出席していただきました。研修Ⅰでは福知山城見学を行いました。福知山観光ガイドの方に場内を案内して

いただき、明智光秀と福知山との関係について解説していただきました。研修Ⅱでは、福知山市丹波生活衣館の職員の方の御指導のもと、組みひも体験を行いました。



生徒の活躍

☆第75回両丹高等学校校定時制  
通信制総合体育大会

〈開催日〉

令和6年9月21日(土)

〈会場〉

宮津市民体育館



○バドミントン 男子

・ 1位 東舞鶴B

松尾 賢治

山中 大慈

・ 2位 東舞鶴A

橘 優斗

・ 3位 東舞鶴C

梅田 翔 琉斗

城代 瑠希有

○ソフトバレーボール

・ 3位 東舞鶴1

斎藤 稜央

中村 莉希也

西田 ルイ

船本 汐音

本田 美姫

山崎 百々華

○卓球 男子

・ 3位 東舞鶴A

松岡 亮甫

○卓球 女子

・ 3位 東舞鶴F

笹渕 妃依

両丹定通総体には、昨年度までバドミントン部員のみが参加していましたが、今年度は浮島分校生徒全員で参加しました。それぞれの生徒が一生懸命競技に取り組む、各種目で素晴らしい戦績を残すことができました。

祝 バドミントン部  
近畿大会 出場

☆令和6年度近畿高等学校  
定時制通信制課程体育大会  
バドミントン競技

〈開催日〉

令和6年11月3日(日)

〈会場〉

西京極総合運動公園内

かたおかアリーナ京都

〈出場者〉

村島 琉斗

山中 大慈

橘 優斗

〈戦績〉

○1回戦

・ 東舞鶴高校(京都)

・ 瀬田工業高校(滋賀)

1 × 2

○2回戦

・ 東舞鶴高校(京都)

・ 飾磨工業高校(兵庫)

3 × 0

飾磨工業高校は、前大会優勝の強豪校でした。



☆中丹文化芸術プロジェクト  
第38回中丹文化祭

短歌・俳句・川柳

○ヤング短歌部門

・ 特選 吉田 璃子(作品A)

・ 入選 吉田 璃子(作品B)

・ 入選 坂根 莉音